

資 料

研究助成事業 募集要項・報告書

2022(令和4)年度 大阪教育大学男女共同参画推進助成のご案内(公募)

ダイバーシティ推進会議では、【大阪教育大学 男女共同参画推進 行動計画 4-教育・研究・啓発】の一環として、「4-1. ジェンダーの視点を取り入れた教育研究活動を奨励する」目的で、男女共同参画に関連した教育活動・研究活動及び実践活動に対する助成を行うことになりました。皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。

男女共同参画推進助成 公募要項

1. 助成金総額 15万円

2. 助成事業件数 1~2件程度

3. 対象

本学所属の附属学校を含む教職員や学生が、単独あるいはグループ・系・部門等の組織で実施する取組みのうち、男女共同参画に関連した教育活動・研究活動及び実践活動を対象とします。グループでの活動の場合は、共同研究のメンバーに学外者が加わってもかまいませんが、活動の代表者は本学在籍者であり、応募責任者は本学の教職員とします。また、学生等が申請する場合は、応募責任者は本学教員とします。

4. 応募方法

男女共同参画推進助成に係る実施計画書及び経費申請書を作成し、応募期限までに人事課福利厚生係(メール添付で提出の場合は ryouritu@bur.osaka-kyoiku.ac.jp)まで提出して下さい。様式は、添付ファイルを参照して下さい。本学ウェブページからもダウンロードできます。

5. 応募期限

2022年7月14日(木)

6. 審査

応募された事業は、ダイバーシティ推進会議において、本学の男女共同参画推進行動計画に合致した事業かどうかの観点で審査を行い、学長が決定します。

7. 助成金交付予定

2022年8月中旬

8. 活動結果の報告・発表

助成を受けた個人・グループ等は、年度末に活動報告(活動の概要・成果)及び会計報告をしていただきます。また、事業に関する情報は、本学ウェブページ等にも掲載させていただきますのでご了承ください。

2022(令和4)年度
大阪教育大学ダイバーシティ推進事業に係る計画書及び経費申請書

事業名											
活動組織	氏名			所属				職名・学年			
	(代表者)										
(分担者・協力者)											
必要経費とその内訳	設備備品費の明細 (円)		消耗品費の明細(円)		旅費(円)		謝金(円)		その他(円)		
	品名・仕様	金額	品名	金額	事項	金額	事項	金額	事項	金額	
	上記計		上記計		上記計		上記計		上記計		
合 計 円											
事業の目的と期待される成果											
事業計画（具体的に記入して下さい）											

<補足>

助成対象の事業は、男女共同参画に関連した教育活動・研究活動及び実践活動です。関連テーマに基づいた附属学校での試行的な授業実践や、学部・大学院在籍学生の卒論や修論に関する研究、卒業生（現職教員）との共同研究（授業開発や実態調査等）、学部・大学院志願者増をめざした部門単位の活動（ニーズ調査や聞き取り調査を含む）や啓発活動等、研究分野に関わらず、幅広い視点で捉えた「男女共同参画の推進に寄与する事業」について応募して下さい。

【参考資料】過去の採択実績

◆2013年度

- 1) ジェンダー観の違いによる基礎的な被服製作技能の比較検討（家政教育講座）
- 2) 園児の性差による美術鑑賞活動の学習成果に関する実践研究－ナラティブ・アプローチによる男女の発話行為内容の分析を通して－（附属平野中学校）
- 3) 子育て世代の社会人大学院生の就学環境づくりに向けての実態把握－夜間大学院・健康科学専攻の大学院生を対象に－（健康生活科学講座）

◆2014年度

- 1) 父親の子育てを支える社会システムの検証～父親の育児を支えるツールの分析から～（家政教育講座）
- 2) 大阪における「子育て支援ガイドブック」の提案（家政教育講座）
- 3) 家族を抱え夜間大学院で学ぶ社会人大学院生の就学環境づくりに向けての調査研究（健康生活科学講座）
- 4) ジェンダーの視点から見るグローバル女性人材の育成：日米中三国における男女共同参画の比較研究（欧米言語文化講座）
- 5) イクメン・イクボス養成プロジェクト～くるみんマークをもつ学校を目指して（事務局）

◆2015年度

- 1) 父親支援研究会の立ち上げとその活動～我が国の父親支援発展を目指して～（家政教育講座）
- 2) ワークショップを通して中学生が考える“性”（附属平野中学校）

◆2016年度

- 1) 附属平野中学校に赤ちゃんを招こう－ふれあい体験で“いのち”を実感する－（附属平野中学校）
- 2) 女性管理職に学ぶ組織マネジメント（教職教育研究センター）
- 3) 「合理的配慮」に基づくデジタル教材を活用した知的・発達障がい児に対する「性教育」事業－男女共同参画における合理的配慮として－（特別支援教育講座）
- 4) 乳幼児育児中の母親が大学で学ぶときの支援について（特別支援教育講座）

◆2017 年度

- 1) 国語科教師を志望する学生へのジェンダーの視点を織り込んだ卒業論文指導法の研究
(国語教育講座)
- 2) 大教大キッズサマーキャンパス (事務局)
- 3) 現代高校生男女の観点から明治大正期の高等女学校教科書「女子国語読本」を読む：吉田彌平「女子国語読本」の男女共同研究 (附属高等学校天王寺校舎)
- 4) リビング・ライブラリー～学生の学びとおとなの学びが、虹色に交差する～ (教職教育研究センター)
- 5) 附属学校園女性管理職による女性教員のための支援プロジェクト (附属学校園)

◆2018 年度

- 1) 小・中学生の多様なキャリア開発に向けて－「ジェンダー意識と家庭生活観の調査」を基にした授業研究－ (家政教育講座)

◆2019 年度

- 1) ジェンダーによる学部入学者数のアンバランスの改善 (家政教育講座)

◆2020 年度

- 1) ダイバーシティ教育とジェンダー (表現活動教育系)
- 2) 自尊感情が職業意識や結婚観に与える影響－ジェンダーの視点からの検討－
(健康安全教育系)

◆2021 年度

- 1) インクルーシブ教育を前提とした消費者教育の教材開発 (健康安全教育系)

令和4年度 大阪教育大学男女共同参画推進事業 活動結果報告

男女共同参画社会を実現するための家庭科教育の実践

(代表者) 大阪教育大学附属池田中学校 大野 真貴

(協力者) 大阪教育大学附属天王寺中学校 安福 華世

1. 目的

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動を参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」を目指し、男女共同参画社会基本法が平成11年に施行され今日に至る。しかし2022年の世界経済フォーラムが発表したジェンダー・ギャップ指数の日本の総合順位は、146か国中116位（前回は156か国中120位）と、前回と比べほぼ横ばいの順位となっている。働き方の見直しをし、家庭生活の責任が女性に偏りがちな状況から男女ともに仕事と家事責任を担うことのできる社会体制作りが重要である。

そのような社会背景から、小中学校における男女共生教育やキャリア教育は意識づけという視点でも非常に重要な価値を占める。家庭科の授業を通して生徒自身が男女の共同参画社会の実現に向けての問題について考え行動できる人材の育成を目指す。

2. 活動の取り組み

附属池田中学校	附属天王寺中学校
授業主題「様々な性を生きる」	授業主題「避難所における男女共同参画を考える」
1、「いろいろな性」 講演：清水 展人氏 氏の性同一性障害と診断された経緯から社会で自分らしく生きていくことについて学ぶ。 2、「いろいろな性」② 公園を振り返り、班学習を行い、自分らしく生きていくことを考える。 3、身近にある男女不平等とは 私たちの周りにある男女不平等と思われる事象について考える。 4、「働き続けるということ」① 多様な働き方についてゲストティーチャーを招いて考える。 5、「働き続けるということ」② 社会の現状と課題について考える。 6、「働き続けるということ」③ 家庭での男女共同参画について考える。	1、天王寺消防署との合同授業を実施。 地震体験車を乗車し、震度7の地震を体験する。その地震から身を守るためにどのように行動することが必要かを学ぶ。 ADEでの救急救命講習を実施し、AEDの使用法と心肺蘇生法を学ぶ。 2、災害時の情報確保と連絡手段 登下校時に災害が起こった時の安全確保と避難についてハザードマップを用いて避難場所を考る。 3、避難所における行動と備え 学校において災害が発生した場合、自宅に帰るまでの学校での避難生活について考える。また、家庭で災害が起こった時の避難場所と避難経路、家庭での備えを考える。

<p>7、「みんなが輝ける社会に向けて」 班学習を中心に、みんなが輝ける社会の実施に向けて提案する。</p>	
--	--

3. 活動の成果

(1) 生徒の成果物より（抜粋）

附属池田中学校	附属天王寺中学校
<p>○18歳になって選挙に参加できるようになる前に自分の中での意識を変えたいと思います。家事は母ばかりがおこなっているので、まずは手伝うことから初めて家事の大変さと父の仕事の大変さを学んでいき選挙に参加したいと思います。</p> <p>○性別による差別をなくしていくためには若い世代の意識を変えていかなければならないので子供たちへの男女矯正教育を積極的におこなって行ってほしいと思います。</p> <p>○家事は共働きだけとお母さんがすることが多いと感じています。それでもお母さんの方が早く帰ってきていたからそうだったので、今は2人ともかなり遅い時間に帰ってくるが増えています。兄や私はもう家事もできるのでこれからは私たちが率先して動けるようになりたいと思います。家族が疲れているときに助け合えるよう、男女関係なく家事を分担していきたいと思いました。</p>	<p>○近くで人が倒れて、最悪の場合の死んでしまうことが会った時、自分が何も分からなくて何もできなくて、どうしたら良かったんだと思うことがないように、教えて頂いたことをしっかり覚えて、命を落とす人が減るようにしていきたいです。この授業で教えていただいて本当に良かったです。震度7の地震がどれだけの力を持っているのかを知って、日頃の備えや知識がとても重要なんだと思いました。</p> <p>○自分は男子だが、女子でも倒れている人がいたら、はずかしいけど勇気を持って助けようと思った。</p> <p>○なんか怖いなあ、くらいであまり興味を持って調べたこともなかったので、危険性の高さに驚きました。その分、色々な防災に関する知識(防災バッグの作り方や災害用伝言ダイヤルのかけ方など)を積極的に学んで、少しは地震が起きてもパニックにならずに対処できるようになれたと思います。さらに調べるなどして知識を増やしたり、今起きたらこうしようと色々な場所でイメージするようにして、共助もできる人になりたいなと思います。</p>

授業の取り組みの中で、多くの生徒が以上のような「様々な場面で男女の協力が必要である」ということを考えた感想を見ることができた。

(2) 課題

上記の感想のように多くの生徒が男女共生について考えるように思われる。しかし、限られた授業の数の中で計画していたアンケートが実施できず、授業の前後での生徒の変容を看取うことができなかった。また、授業を受けて家庭や日常の中でどのように意識して行動できるようになったのか、また、授業で学んだことを家庭で生かしているかなど実践的な態度を図るまで至らなかった。

4. まとめと今後の取り組み

本実践は、中学校家庭科教育における男女共同参画社会の実現に向けて、生徒を取り巻く家庭や社会問題から「男女共生」を考えさせる授業展開を考えることであった。この当初の目的は生徒の成果物より、附属池田中学校、附属天王寺中学校ともに一定の成果を得ることができたと考ええる。また、ゲストティーチャーによる講演や地域関係機関との共同授業はそれぞれの中学校での課題を多角的に考えさせるため非常に有効であった。

しかし、生徒の意識の変容や実際に考えたことを生徒自身の生活にいかに関活用する実践的な態度を養うために更なる授業の工夫が必要と考える。

2023(令和5)年度 大阪教育大学男女共同参画推進助成のご案内（公募）

ダイバーシティ推進会議では、【大阪教育大学 男女共同参画推進 行動計画 4-教育・研究・啓発】の一環として、「4-1. ジェンダーの視点を取り入れた教育研究活動を奨励する」目的で、男女共同参画に関連した教育活動・研究活動及び実践活動に対する助成を行うことになりました。皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。

男女共同参画推進助成 公募要項

1. 助成金総額 15万円

2. 助成事業件数 1件程度

3. 対象

本学所属の附属学校を含む教職員や学生が、単独あるいはグループ・系・部門等の組織で実施する取組みのうち、男女共同参画に関連した教育活動・研究活動及び実践活動を対象とします。グループでの活動の場合は、共同研究のメンバーに学外者が加わってもかまいませんが、活動の代表者は本学在籍者であり、応募責任者は本学の教職員とします。また、学生等が申請する場合は、応募責任者は本学教員とします。

4. 応募方法

男女共同参画推進助成に係る実施計画書及び経費申請書を作成し、応募期限までに人事課福利厚生係（メール添付で提出の場合は ryouritu@bur.osaka-kyoiku.ac.jp）まで提出して下さい。様式は、添付ファイルを参照して下さい。本学ウェブページからもダウンロードできます。

5. 応募期限

2023年7月28日（金）

6. 審査

応募された事業は、ダイバーシティ推進会議において、本学の男女共同参画推進行動計画に合致した事業かどうかの観点で審査を行い、学長が決定します。

7. 助成金交付予定

2023年9月頃

8. 活動結果の報告・発表

助成を受けた個人・グループ等は、年度末に活動報告（活動の概要・成果）及び会計報告をしていただきます。また、事業に関する情報は、本学ウェブページ等にも掲載させていただきますのでご了承ください。

2023(令和5)年度
大阪教育大学ダイバーシティ推進事業に係る計画書及び経費申請書

事業名											
活動組織	氏名			所属				職名・学年			
	(代表者)										
(分担者・協力者)											
必要経費とその内訳	設備備品費の明細 (円)		消耗品費の明細(円)		旅費(円)		謝金(円)		その他(円)		
	品名・仕様	金額	品名	金額	事項	金額	事項	金額	事項	金額	
	上記計		上記計		上記計		上記計		上記計		
合 計 円											
事業の目的と期待される成果											
事業計画（具体的に記入して下さい）											

<補足>

助成対象の事業は、男女共同参画に関連した教育活動・研究活動及び実践活動です。関連テーマに基づいた附属学校での試行的な授業実践や、学部・大学院在籍学生の卒論や修論に関する研究、卒業生（現職教員）との共同研究（授業開発や実態調査等）、学部・大学院志願者増をめざした部門単位の活動（ニーズ調査や聞き取り調査を含む）や啓発活動等、研究分野に関わらず、幅広い視点で捉えた「男女共同参画の推進に寄与する事業」について応募して下さい。

【参考資料】過去の採択実績

◆2013年度

- 1) ジェンダー観の違いによる基礎的な被服製作技能の比較検討（家政教育講座）
- 2) 園児の性差による美術鑑賞活動の学習成果に関する実践研究－ナラティブ・アプローチによる男女の発話行為内容の分析を通して－（附属平野中学校）
- 3) 子育て世代の社会人大学院生の就学環境づくりに向けての実態把握－夜間大学院・健康科学専攻の大学院生を対象に－（健康生活科学講座）

◆2014年度

- 1) 父親の子育てを支える社会システムの検証～父親の育児を支えるツールの分析から～（家政教育講座）
- 2) 大阪における「子育て支援ガイドブック」の提案（家政教育講座）
- 3) 家族を抱え夜間大学院で学ぶ社会人大学院生の就学環境づくりに向けての調査研究（健康生活科学講座）
- 4) ジェンダーの視点から見るグローバル女性人材の育成：日米中三国における男女共同参画の比較研究（欧米言語文化講座）
- 5) イクメン・イクボス養成プロジェクト～くるみんマークをもつ学校を目指して（事務局）

◆2015年度

- 1) 父親支援研究会の立ち上げとその活動～我が国の父親支援発展を目指して～（家政教育講座）
- 2) ワークショップを通して中学生が考える“性”（附属平野中学校）

◆2016年度

- 1) 附属平野中学校に赤ちゃんを招こう－ふれあい体験で“いのち”を実感する－（附属平野中学校）
- 2) 女性管理職に学ぶ組織マネジメント（教職教育研究センター）
- 3) 「合理的配慮」に基づくデジタル教材を活用した知的・発達障がい児に対する「性教育」事業－男女共同参画における合理的配慮として－（特別支援教育講座）
- 4) 乳幼児育児中の母親が大学で学ぶときの支援について（特別支援教育講座）

◆2017 年度

- 1) 国語科教師を志望する学生へのジェンダーの視点を織り込んだ卒業論文指導法の研究
(国語教育講座)
- 2) 大教大キッズサマーキャンパス (事務局)
- 3) 現代高校生男女の観点から明治大正期の高等女学校教科書「女子国語読本」を読む：吉田彌平「女子国語読本」の男女共同研究 (附属高等学校天王寺校舎)
- 4) リビング・ライブラリー～学生の学びとおとなの学びが、虹色に交差する～ (教職教育研究センター)
- 5) 附属学校園女性管理職による女性教員のための支援プロジェクト (附属学校園)

◆2018 年度

- 1) 小・中学生の多様なキャリア開発に向けて－「ジェンダー意識と家庭生活観の調査」を基にした授業研究－ (家政教育講座)

◆2019 年度

- 1) ジェンダーによる学部入学者数のアンバランスの改善 (家政教育講座)

◆2020 年度

- 1) ダイバーシティ教育とジェンダー (表現活動教育系)
- 2) 自尊感情が職業意識や結婚観に与える影響－ジェンダーの視点からの検討－
(健康安全教育系)

◆2021 年度

- 1) インクルーシブ教育を前提とした消費者教育の教材開発 (健康安全教育系)

◆2022 年度

- 1) 男女共同参画社会を実現するための家庭科教育の実践 (附属池田中学校／附属天王寺中学校)

令和5年度 大阪教育大学男女共同参画推進事業 活動結果報告

附属特別支援学校高等部でのLGBTQへの理解の推進

(代表者) 西山 健

(分担者・協力者) 岩崎 弘 ・ 松本 宜明

1.目的

特別支援学校高等部学習指導要領（文部科学省，2019）では、「キャリア教育の充実」が掲げられた。キャリア教育とは，一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育であり，長期間の実習など就業体験活動の機会を積極的に設けることを推進する。つまり，高等部の教育はこれまで以上に就労を意識したワークキャリアの取り組みが重要視されるようになったと言える。

それに伴い，ライフキャリアの取り組みが削減されてしまったことにより，社会生活について学ぶ時間が削減され，性教育については，社会的に重要視されているにもかかわらず校則で異性との交際は禁止（新田，2020）等が報告しているとおおり，指導だけで充実した取り組みがなされていない状況であり，ダイバーシティ&インクルージョンの実現に向けて，障害者権利条約のめざす「人間の多様性の尊重を強化すること」という取り組みもなされていない現状となっている。

そこで，本事業では2つの目的に対して実施する。第1の目的は，特別支援学校高等部において，今まで報告例のない性的少数者（LGBTQ）に対する理解を深める実践例を示すこととする。また，その取り組みを実施したことにより，本校高等部生徒が，偏見や差別意識をなくし，一人ひとりが，多様な個性を尊重し合える豊かな心を育み，偏見や差別的な態度をとらないという人格が形成されることを期待する。

さらに，第2の目的として，LGBTQを通して実生活における問題点として性別を問わないトイレについてTOTO株式会社のご担当者様から「考えよう！みんなのパブリックトイレ」というテーマで授業をしていただき，誰もが利用しやすいトイレについて考える。このトイレをきっかけに，みんなが暮らしやすい安心安全な社会の形成について学ぶことと共に，TOTO株式会社の企業紹介もしていただき，企業理念やマーケティング（市場調査と製品開発など）を含んだキャリア教育にも繋げていく。

2.活動の取り組み

(1)対象生徒

道徳の授業にて，習熟度別7名でグループ編成された学習グループにて実践を行った。

授業を行う前に，今までに「LGBT」や「同性愛」、「トランスジェンダー」、「ダイバーシティ」について学習した経験があるかどうかを確認するインタビュー調査を生徒に行った。その結果，「ダイバーシティ」という言葉を聞いたことがあると答えた生徒1名がいた。「今まで学校で学習したことはないが，どこかで聞いたことはあるが，意味はわからない」と答えており，意味を全く理解できていない様子であった。また，「同性愛」という言葉は，聞いたことがあるという生徒は5名おり，「考えがわからない」や「なんか違うような気がする」，「同性愛が良いことかどうかがわからない」など嫌悪を示すような表現があった。

(2) 多様な生き方勉強会(2023年12月5日)

①題材のねらい

特別支援学校高等部学習指導要領における特別の教科 道徳「主として人との関わりに関すること」をもとに、当事者のAさんをゲストティーチャーとして招いて、「当事者のAさんが生徒たちから偏見や差別意識をなく、一人の人として、接すること」を学習のねらいとした。

今回の実践では、今まで「道徳」で取り組んできたことも考慮しながら、実践に取り組む前に担当教員とゲストティーチャーのJUNさんを交えて意見交換を数回行った。その意見交換から、岩崎ら(2022)を踏まえて「高等部の生徒たちにわかってもらいたいこと」として、LGBTについて知ることだけでなく「自分らしく生きることの大切さ(A)」「人のことを思いやる態度(B)」「偏見や差別意識をもたない(C)」「困っている人を気遣う態度(D)」の4項目を抽出し、実践を行うにあたって共通理解を図ることができた。

②展開

展開1:ワーク「これは男の子?女の子?」を行った。「ヒゲが生えている人」や「スカートをはいている人」、「ピンク色が好きな人」等のカードを「男の子」と「女の子」のいずれかを選んで置くという活動を行った。(A、B、C)

展開2:「LGBTって聞いたことがありますか?」という問いを生徒たちに行った。その後、Aさんが「私もLGBTの一人です」と生徒たちに伝え、「私は自分のことを、男でも女でもないと思っています」「好きになる相手もいません」と自分の思っていることを素直に伝えた。(A、B、C)

展開3:「困っていること」と題して、男女それぞれ入口があるトイレと、男女それぞれ入口がある銭湯の脱衣室の写真を映し出して、「どちらにも入りたくない」という気持ちを伝えた。(B、C、D)

展開4:「LGBTでも、そうでなくても、いろんな生き方をしている人がいること」を、イラストを用いて女性同士や男性同士の同性婚のことや、女子高生が制服のスカートではなく制服のズボンを選んで穿いていることを説明した。(A、B、C)

展開5:展開4で説明した人たちに向かって『「おかしいよ」「きもちわるい」なんて言われたら誰でも悲しくなります』と、展開4で説明した人たちだけでなく、言われたすべての人が悲しい気持ちになるだけでなく、「その人の生き方を否定している」ことを伝えた。そして、「自分は困っていなかったり悩んでいなくても、誰かが困っていたり悩んでいることもあります」と自分が困ったり悩んでいないことでも、まわりの人たちは困ったり悩んだりすることもあることを伝えた。(B、C、D)

まとめ:「性別で困っている人に、あなたは、どうしてあげられそうですか?」と問いかけ、Aさんが生徒たちに「私は、他の人と同じように接してもらえると嬉しいです。」と伝えた。(B、D)

振り返り:導入からまとめまでをAさんに行ってもらい、その後、授業者が生徒たちと展開1～まとめまでの振り返りを行いながら、生徒たちの疑問に思ったことや授業者が確認するような質問を行ったりした。(A、B、C、D)

(3) 考えよう!みんなのパブリックトイレ(2024年1月25日)

①題材のねらい

特別支援学校高等部学習指導要領における特別の教科 道徳「主として人との関わりに関すること」をもとに、企業のBさんとCさんをゲストティーチャーとして招いて、「誰もが気持ちよく使えるトイレについて考え、LGBT や多様な利用者配慮への偏見や差別意識をなく、一人の人として、接すること」を学習のねらいとした。

今回の実践では、今まで「道徳」で取り組んできたことも考慮しながら、実践に取り組む前に担当教員とゲストティーチャーのBさんとCさんを交えて意見交換を数回行った。その意見交換から、岩崎ら(2022)を踏まえて「高等部の生徒たちにわかってもらいたいこと」として、前回の授業を踏まえてパブリックトイレの利用について知ることだけでなく「自分らしく生きることの大切さ(A)」「人のことを思いやる態度(B)」「偏見や差別意識をもたない(C)」「困っている人を気遣う態度(D)」の4項目を抽出し、実践を行うにあたって共通理解を図った。

②展開

展開1:「ひとりでも多くの方に心地よく使ってもらうために、トイレはどうあるべきなんだろう?」という問いを生徒たちに行った。(B、D)

展開2:「『パブリック(男女共用)トイレ』を必要としている人の声を知っていますか?」について、父親が幼い娘をトイレに連れて行く時に男性用と女性用のいずれかしか選択できない場合や、LGBT の人も男性用と女性用のいずれかのトイレしか選択できない場合のイラストを用いて説明した。(B、C、D)

展開3:パブリックトイレがあると父親が幼い娘の気持ちは「父親も娘と一緒にトイレに入ると安心」、そして、LGBT の人の気持ちは「性別を問わないトイレだと安心」となることを説明した。(A、B、C、D)

展開4:使う人がトイレを選べる選択肢が増えるように性別を問わずに使えるパブリックトイレの「個室トイレ」を設けていくことも必要であることを説明した。(B、C、D)

展開5:横浜駅のパブリックトイレの外観やトイレの入口、個室トイレの中、車いす使用者優先トイレの中などの写真を見た。(B、C、D)

まとめ:「トイレのあり方はさまざま、正解はひとつではない」「パブリックトイレは、みんなが使う場所。まずは知って考えることから始めよう!」と伝えた。(A、B、C、D)

振り返り:導入からまとめまでをBさんとCさんに行ってもらい、その後、授業者が生徒たちと展開1～まとめまでの振り返りを行いながら、生徒たちの疑問に思ったことや授業者が確認するような質問を行ったりした。(A、B、C、D)

3.活動の成果

(1)「多様な生き方勉強会」の授業前と授業後のアンケート結果

1. 他の人のことについて

質問1 世の中には、差別をされても仕方がない人がいると思う。

思わない(4名 → 4名) ・ どちらともいえない(2名 → 2名) ・ 思う(1名 → 1名)

質問2 人としての価値が低い人は存在する。

思わない(3名 → 5名) ・ どちらともいえない(4名 → 2名) ・ 思う(0名 → 0名)

質問3 つい、馬鹿にしたくなる人がいる。

いない(4名 → 6名) ・ どちらともいえない(3名 → 1名) ・ いる(3名 → 0名)

質問4 自分と考えが異なる意見を理解するように努めている。

理解しようとしている(6名 → 7名) ・ どちらともいえない(1名 → 0名) ・ 理解しようとしていない(0名 → 0名)

質問5 自分と異なる相手を受け入れることができる。

できる(7名 → 6名) ・ どちらともいえない(0名 → 1名) ・ できない(0名 → 0名)

質問6 人の考えや気持ちを積極的に理解しようとは思う。

思う(5名 → 4名) ・ どちらともいえない(2名 → 3名) ・ 思わない(0名 → 0名)

2. マイノリティについて

質問7 女性が男性のようにふるまうことを、理解できない。

理解できる(2名 → 5名) ・ どちらともいえない(4名 → 2名) ・ 理解できない(1名 → 0名)

質問8 女性のようにふるまう男性は、自分を恥ずかしいと思うべきだ。

思うべきではない(2名 → 3名) ・ どちらともいえない(4名 → 3名) ・ 思うべきだ(1名 → 1名)

質問9 自分のことを男性だと思う女性は、おかしいと思う。

おかしくないと思う(3名 → 5名) ・ どちらともいえない(2名 → 2名) ・ おかしいと思う(2名 → 0名)

質問10 女性のような服装をした男性なんて気持ち悪い。

気持ち悪くない(1名 → 2名) ・ どちらともいえない(5名 → 4名) ・ 気持ち悪い(1名 → 1名)

質問11 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という考えは、良いことだと思う。

良いことではないと思う(4名 → 4名) ・ どちらともいえない(1名 → 1名) ・ 良いことだと思う(2名 → 2名)

(2)「考えよう!みんなのパブリックトイレ」の授業前と授業後のアンケート結果

1. こんなトイレがあることを知っていますか?

質問1 くるまいす つか かた たいおう 車椅子を使っている方に対応したトイレがあることを知っていますか。
知っている(7名 → 7名) ・ 知らない(0名 → 0名)

質問2 せいてき かた たいおう 性的マイノリティの方に対応したトイレがあることを知っていますか。
知っている(1名 → 7名) ・ 知らない(6名 → 0名)

質問3 たよう りようしゃはいりよ ひつよう かた たいおう 多様な利用者配慮(ダイバーシティ)が必要な方に対応したトイレがあることを知っていますか。
知っている(1名 → 7名) ・ 知らない(6名 → 0名)

2. 附属特別支援学校のトイレについて答えましょう。

質問4 がっこう せいてき かた たいおう 学校には、性的マイノリティの方に対応したトイレがありません。
がっこう せいてき かた たいおう せっち ほう よ おも この学校にも性的マイノリティの方に対応したトイレを設置した方が良いと思いますか。
はい(4名 → 7名) ・ いいえ(3名 → 0名)

質問5 いま がっこう せいてき かた きも つか おも 今の学校のトイレは、性的マイノリティの方が気持ちよく使えると思いますか。
おも 思える(2名 → 0名) ・ おも 思えない(5名 → 7名)

質問6 いま がっこう りよう せいてき かた ふべん ふまん ふあん かん 今の学校のトイレを利用するにあたり、性的マイノリティの方は、不便・不満・不安を感じると
おも 思いますか。
おも 思える(4名 → 6名) ・ おも 思えない(3名 → 1名)

質問7 がっこう たよう りようしゃはいりよ ひつよう かた たいおう 学校には、多様な利用者配慮(ダイバーシティ)が必要な方に対応したトイレがありません。
がっこう たよう りようしゃはいりよ ひつよう かた たいおう せっち ほう よ おも この学校にも多様な利用者配慮(ダイバーシティ)が必要な方に対応したトイレを設置した方が良いと思いますか。
おも 思える(6名 → 7名) ・ おも 思えない(1名 → 0名)

質問8 いま がっこう たよう りようしゃはいりよ ひつよう かた きも つか 今の学校のトイレは、多様な利用者配慮(ダイバーシティ)が必要な方が気持ちよく使えると
おも 思いますか。
おも 思える(2名 → 3名) ・ おも 思えない(5名 → 4名)

質問9 いま がっこう りよう たよう りようしゃはいりよ ひつよう かた 今の学校のトイレを利用するにあたり、多様な利用者配慮(ダイバーシティ)が必要な方は、
ふべん ふまん ふあん かん おも 不便・不満・不安を感じると思いますか。
おも 思える(4名 → 5名) ・ おも 思えない(3名 → 2名)

4.まとめと今後の課題

「多様な生き方勉強会」については、LGBT 当事者も参加した知的障害特別支援学校高等部の LGBT への理解促進を行うための実践例を示すことができた。そして、当事者の方を招聘し、LGBT について説明を行ったり、体験談を話していただいたりするのではなく、当事者として困っていることや接し方についての気持ちを伝えることが、より効果があることが明らかとなった。

「考えよう！みんなのパブリックトイレ」については、企業と協働しながら知的障害特別支援学校高等部でのパブリックトイレを題材とした LGBT への理解促進を行うためのプログラムを開発することができた。また、前回授業「多様な生き方勉強会」において LGBT の方が話していたことが、身近な題材（トイレ）を通じて、理解が進んだことが明らかとなった。このことにより、前回の授業より、さらに LGBT への理解を深めることができた。

今回の取り組みでは、「自分らしく生きることの大切さ」「人のことを思いやる態度」「偏見や差別意識をもたない」「困っている人を気遣う態度」の4つの観点を踏まえて授業プログラムを作成することにより、「嫌悪」を覚えずに授業を終えることができた。そして何より、生徒たちにとって身近な事例や出来事、習慣などを取り上げながら、プログラムを構成することの必要性が示唆された。

課題としては、今回は特別な教科「道徳」において実践を行ったが、知的障害特別支援学校高等部において、身近な事例や出来事、習慣などを踏まえた授業プログラムを開発していくためには、他教科とも連携したプログラム開発を検討していく重要であることが示唆された。